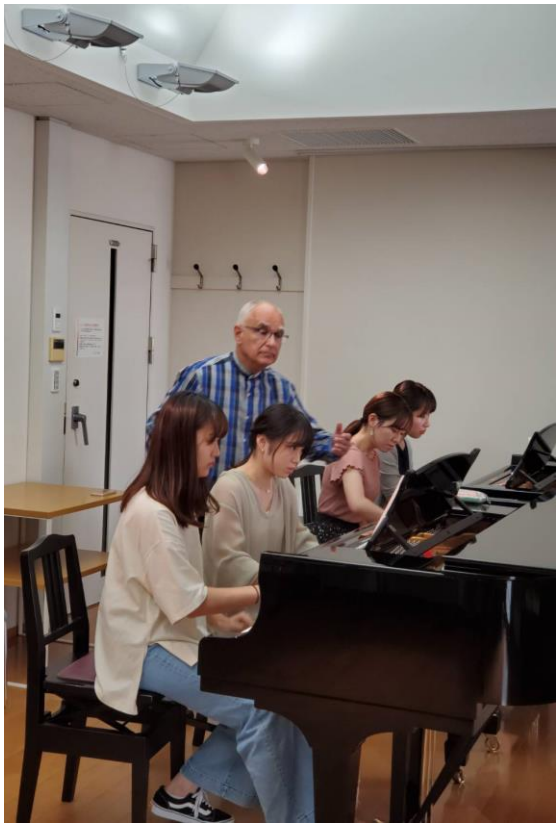
ヨーゼフ・アントン・シェラー教授　海外招聘特別レッスン　2019 年 9 月 20 日（金）L506

シェラー先生は 1988 年にドイツケルン音楽大学の教授に就任し、2013 年からは同校の学部長も務めていました。定期的にドイツ国内と海外（オーストリア、ポーランド、セルビア、アメリカ、中国、韓国、インドネシア、日本）でマスタークラスも行い、多くの優れたピアニストや教育者を輩出されてきました。

一昨年に続き２度目の海外招聘特別レッスンとなる今回は、５組９名（ソロ３名、連弾１組、２台８手１組）の学部生が、カプースチン、リゲティ、プロコフィエフ、スメタナ、スクリャービンの作品を受講しました。シェラー先生自身 A.シェーンベルク国際コンクールの覇者で、２０世紀以降の現代音楽が重要なレパートリーでもあるため、今回のプログラムには大変興味を示され、それぞれの作曲家が身近に感じられるようなエピソードも沢山話して下さいました。多くの音が混在する現代曲は、作曲家の求める世界(例えばプロコフィエフでは機械文明がもたらした音響等)が何かを先ず理解し、どの音がどのような意味を持ち、何がどのように重要かを見極めた上で明確な意志を持って表現することが大切であると、実演して下さいました。アンサンブルでは、とにかく自分とお互いを「もっとよく聴く」ことの重要性に皆気付かされ、１つの音楽を作り上げていくという共同作業への喜びが深まっていくのが伝わってきました。リズムの最も良い型やタイミングを体感させようと、受講生と一緒に指揮しながらステップを踏むように歩いてみせるなど、シェラー先生は、それぞれの学生にとって重要と思われるポイントを各自の深い部分でしっかり認識し理解できるように、様々なアイデアを持って示されていたのが印象的で、とても温かさのこもったレッスンでした。

シェラー教授からは、日本で１番（と、おっしゃっていました！）の施設を備えている洗足学園で、学生達と様々な形態の興味深い作品に関われ、大変幸せな時間でした、との謝意が伝えられました。